

町公衆衛生組合連合会や山田の海を守る会では、ごみの不法投棄やポイ捨てを減らすため、クリーンキーパーや環境アドバイザーを委嘱。ごみの収集活動や不法投棄の監視、ポイ捨て防止の啓発活動にも取り組んでいます。

ごみの撲滅に 取り組む人々



環境アドバイザー
伊藤夕子さん（豊間根・69）

子供の見本であってほしい

「道路端にごみが落ちていないかどうか、いつも気になってしまいます」と話す伊藤さん。昨年からは環境アドバイザーを務め、今年で2年目となります。環境アドバイザーは、ごみステーションの適正管理の指導や不法投棄のパトロールを主な任務とし、町公衆衛生組合連合会（豊間根会長）から委嘱されるもので、毎年6月から翌年3月まで活動。町内では18人が委嘱されており、伊藤さんは豊間根地区を担当しています。

伊藤さんによると、最近ごみの量が増えてきているのが羽々の下地区。県道宮古山田線が整備されて車が通りやすくなったためか、最近では大きなウイスキーの空びんが何本もまとめて捨てられていたそうです。「車で通る人が捨てていくのですし、うが、本当に困ったものです」とあきれ顔で話します。

その一方で「子供たちが道路沿いの清掃活動をしてくれているので、ごみが少なくなってきました」とうれしいことも。

「大人が捨てる姿を見て、子供たちもポイ捨てるようになります。大人は常に子供の見本となる行動をとってほしいですね」と良識ある行動を呼び掛けていました。

「海をきれいにするため、少しでも役に立てれば」と話す上林さん。山田の海を守る会（会長・沼崎喜一町長）が委嘱するクリーンキーパーを務めて、今年で4年目を迎えます。

クリーンキーパーは海岸沿いの清掃活動や、観光客、釣り客に対するごみの持ち帰りの呼び掛けを主な任務とし、毎年5月から10月までの半年間活動。町内には現在6人が委嘱されており、上林さんは北浜地区から境田地区までを担当しています。

「仕事の合間を見てごみを集めています。なかなか減らないですね。ごみの持ち帰りを呼

ごみはきちんと持ち帰って



クリーンキーパー
上林進兵さん（山田・70）

び掛けても、そのときは素直に返事されますが実際に持つて帰る人は半分くらいです」と残念そうに話します。

捨てられるごみの多くは弁当の容器やジュースの空き缶など、ひどいものでは車の灰皿にたまった吸い殻を漁港に捨てていく人もいるとのこと。

「これからの季節、漁港内での花火やバーベキューが盛んに行われますが、後片付けをする方は少ないです。自分たちが出したごみはきちんと持ち帰るようにしてほしいものです」と利用者のマナー向上を訴えます。